巻　頭　言

創立15周年を迎えるにあたって

会長　河　津　　璋

本年度は，本学会が昭和54年9月13日に創立されてから，ちょうど15周年目にあたります。これを記念として，現在，会誌の特集号の発行，国際シンポジウムの開催，本の出版などの記念事業が計画・実行されつつあります。国際シンポジウムは，「環境触媒と関連材料の表面ナノ制御」なる主題で，平成8年11月に早稲田大学にて開催予定です。本シンポジウムにおいては，内外の著名な研究者からの新しい成果の報告が予定されており，本分野の今後の進展に大きな寄与をすることができるものと期待されております。また，会誌も第16巻より年12冊の月刊となり，投稿された論文などの迅速な出版が可能となり，学会として長年の念願が達成されようとしております。

このように，15周年を迎えて種々の行事が予定されておりますが，本会の今後の活動において，最も重要な課題の一つとして，研究活動の一層の充実が挙げられます。ご承知のように，表面科学の分野は，現代の科学の中で最も重要な分野の一つで，種々の解決すべき興味深い問題を抱えており，多くの産業においてもきわめて大きな役割を果たしていることはいうまでもありません。

表面に関する研究は，最近の科学・技術の進展にともなう，より詳細で精密な理解の必要性と，それを可能にする，種々の測定法の開発・進歩により，種々の困難な点は依然残されているにせよ，原子的スケールで現象の理解をすることができるようになり，表面の関連する各分野で抱えている未解決の，たとえば，実在表面の問題を解き明かすことが可能になりつつあります。

今後は，このような研究を，データの蓄積と，信頼性の向上を図りながら，種々の表面に適用していくと共に，これらの成果を，表面の未解決の問題に適用していくことにあります。また，表面の新しいテーマの開拓や積極的な取り組みも考えられます。

現在の本会の研究活動としては，セミナー，研究会，講演会，国際シンポジウムなどがありますが，このような問題に積極的に取り組むためには，これらの活動，なかでも，研究会，講演会の一層の充実を図る必要があります。

従来は，研究会は企画委員会が，講演大会は講演会担当常務理事が中心となり，相互に連絡をとりながら立案の段階から業務を進めてまいりましたが，このような目的に沿うように，企画を，講座・セミナーと，研究会に分けると共に，研究会，講演会担当常務理事の下にも委員会を設置して，これら企画3委員会の密接な連絡のもと，研究活動を従来にもまして充実するようにしていきたいと考えております。また，このような活動を通して，表面科学の一層の発展に寄与し，これまで以上に，表面の研究者・技術者にとって本会がなくてはならぬものとしていくようにいたしたく考えております。

（東京大学　工学部）